

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類

### 目次

1	学則変更（収容定員変更）の内容	P. 1
2	学則変更（収容定員変更）の必要性	
	(1) 東京有明医療大学大学院の沿革	P. 1
	(2) 収容定員変更の必要性が生じた背景	P. 1
3	学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	
	(1) 教育課程の内容の担保	P. 2
	(2) 教育方法・履修指導方法の内容の担保	P. 2
	(3) 教員組織の内容の担保	P. 3
	(4) 施設・設備内容の担保	P. 3

1 学則変更（収容定員変更）の内容（表1参照）

令和3年度入学生から、保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程の入学定員2人、収容定員4人を増加し、看護学研究科看護学専攻修士課程の入学定員2人、収容定員4人を削減する。

なお、大学院研究科全体の収容定員総数は変更しない。

表1 入学定員及び収容定員の変更

研究科	専攻	課程	改定		現行		増減	
			入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
保健医療学研究科	保健医療学専攻	博士前期課程	<u>7</u>	<u>14</u>	<u>5</u>	<u>10</u>	<u>2</u>	<u>4</u>
		博士後期課程	2	6	2	6	—	—
看護学研究科	看護学専攻	修士課程	<u>3</u>	<u>6</u>	<u>5</u>	<u>10</u>	<u>△2</u>	<u>△4</u>
合計			12	26	12	26	<u>±0</u>	<u>±0</u>

2 学則変更（収容定員変更）の必要性

(1) 東京有明医療大学大学院の沿革

東京有明医療大学大学院は、「保健衛生学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、国民の保健衛生の進展に寄与すると共に、国際性に富む有為の人材を育成すること」を目的として、平成25（2013）年に保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（※）及び看護学研究科看護学専攻修士課程を設置、平成27（2015）年に保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程を設置した。

※平成27（2015）年の博士後期課程の開設に伴い修士課程から博士前期課程と名称変更

(2) 収容定員変更の必要性が生じた背景

ア 入学定員充足状況

保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程は、開設初年度の平成25（2013）年度の180.0%を最大に、過去8か年中6か年において入学定員を超過している（表2参照）。

一方、看護学研究科看護学専攻修士課程は、近隣病院への広報活動や本学看護学部卒業生に対する入学金免除制度拡充や広報活動など、努力は続けてきたものの入学定員の大幅な未充足状態が続いている（表3参照）。

両研究科の入学定員充足状況の実績を踏まえ、大学院研究科全体の収容定員総数は変更しないことを前提に、適切な入学定員及び収容定員への変更を行うものである。

表2 保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程 入学者数推移

和暦 (西暦)	H25 (2013) 年度	H26 (2014) 年度	H27 (2015) 年度	H28 (2016) 年度	H29 (2017) 年度	H30 (2018) 年度	H31 (2019) 年度	R2 (2020) 年度
入学定員	5	5	5	5	5	5	5	5
志願者数	9	7	9	10	7	4	6	4
合格者数	9	7	7	6	6	4	6	4
入学者数	9	7	7	6	6	4	6	4
充足率	<u>180.0%</u>	<u>140.0%</u>	<u>140.0%</u>	<u>120.0%</u>	<u>120.0%</u>	80.0%	<u>120.0%</u>	80.0%
2次募集	実施せず	実施せず	実施せず	実施	実施せず	実施	実施せず	実施

表3 看護学研究科看護学専攻修士課程 入学者数推移

和暦 (西暦)	H25 (2013) 年度	H26 (2014) 年度	H27 (2015) 年度	H28 (2016) 年度	H29 (2017) 年度	H30 (2018) 年度	H31 (2019) 年度	R2 (2020) 年度
西暦	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
入学定員	5	5	5	5	5	5	5	5
志願者数	2	2	1	0	0	3	0	2
合格者数	2	2	1	0	0	3	0	2
入学者数	2	2	1	0	0	3	0	2
充足率	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	40.0%
2次募集	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施

イ 協定大学からの外国人留学生受け入れ

モンゴル国や米国などの本学との大学間交流協定大学において、柔道整復学や鍼灸学を学んだ学生の受け入れも視野に入れている。

3 学則変更（收容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(1) 教育課程の内容の担保

保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程では、今回の入学定員、收容定員増加に伴う教育課程の変更は行わないが、教育の質の維持・向上に向けて、従来と同様に、鍼灸学、柔道整復学領域で医学研究を行うための高度な専門知識や専攻する特別研究分野（鍼灸学、柔道整復学）に必要な知識・研究法を教授していく。また、看護学研究科看護学専攻においても入学定員及び收容定員は減員となるものの、教育課程の変更は行わず、従来と同様の教育課程と内容とする（添付資料：教育課程等の概要）。

(2) 教育方法・履修指導方法の内容の担保

両研究科ともに、今回の学則変更による教育方法及び履修指導方法の変更は行わないが、従来と同様に少人数制に対応した個人の希望や適性を踏まえた教育指導を行う。

履修指導は個々の学生の希望、保有している学士学位の領域、将来のビジョンをもとに主として特別研究指導教員が行う。また、年度始めのオリエンテーションにおいて研究科長や副研究科長（看護学研究科）、学務部大学院事務担当からもカリキュラムポリシーに沿った履修指導を行う。

(3) 教員組織の内容の担保

今回の学則変更による教員組織の変更は行わないが、従来と同様に、原則月1回開催する保健医療学研究科委員会並びに看護学研究科委員会において、専任教員の配置や今後の教員組織編成に係る取り組みなどを協議し、教員組織の充実を図る。

(4) 施設・設備内容の担保

保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期課程では、入学定員及び収容定員を増加した後も、収容定員変更前の教育研究環境と同等の環境を提供する。

大学院での教育研究の基礎的な場所として、在籍期間中、大学院生各自が専用で使用できる席を確保しており、この「大学院学生研究室（自習室）」を当該研究科の専用スペースとして位置付けている。また、教員研究室には教員用スペースに加えて学生指導のスペースが設定されており、大学院生各自が進めた先行調査研究や文献調査、研究計画や研究進行状況に基づく指導などは、この場所で行われるケースが多い。

さらに、附属図書館についても、国内外の専門図書や学術雑誌、学外からアクセス可能な電子ジャーナル・データベースなどを整備しており、上記の施設・設備と合わせて十分な教育研究環境を整えている。

教育課程等の概要																
(保健医療学研究科 保健医療学専攻 (M))																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	保健医療学研究法	1前	2					○			2	1				兼1 オムニバス 兼2 オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	解剖学特論	1前		2			○				1					
	解剖生理学実習	1後		2					○		2	1				
	生理学特論	1前		2			○				1					
	免疫病理学特論	1後		2			○				1					
	薬理学特論【開講なし】	1前		2			○									
	伝統医学特論【開講なし】	1後		2			○									
	外傷学特論	1前		2			○				1					
	健康管理学特論	1後		2			○				1					
	女性医療学特論	1前		2			○				2					
	健康科学特論	1後		2			○					1				
	スポーツ医科学特論	1前		2			○					1	2			
	小計(12科目)		—	2	22	0			—			11	4	2	0	
専門科目	鍼灸研究法特論	1前		2			○				4	3	5			兼1 オムニバス 兼1 オムニバス 兼1 オムニバス 兼3
	鍼灸研究法演習	1後		2				○			4	3	5			
	鍼灸研究法実習	2通		4					○		4	3	5			
	基礎柔道整復学特論	1前		2			○				2	5				
	臨床柔道整復学演習	1後		2				○			2	4				
	応用柔道整復学演習	2通		4				○			3	5				
小計(6科目)		—	0	16	0			—			19	23	15	0	0	
特別研究	1～2通		8					○			11	10	6			
小計(1科目)		—	8	0	0			—			11	10	6	0	0	0
合計(19科目)		—	10	38	0			—			15	10	6	0	0	兼4
学位又は称号	修士(鍼灸学・柔道整復学)			学位又は専攻の分野			保健衛生学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
共通科目選択14単位以上(必修科目2単位を含む。), 専門科目8単位以上, 特別研究8単位, 合計30単位以上を修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

(看護学研究科 看護学専攻 (M))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	看護理論特論	1前	2				○				2					共同 兼1 兼1 兼2 兼1
	看護研究特論	1前	2				○				1					
	看護教育学特論	1後		2			○				1					
	看護倫理学特論	1後		2			○					1				
	実用英語特論	1・2後		2			○				1					
	解剖学特論	1・2前		2			○				1					
	解剖生理学実習	1・2後		2			○				2	1				
	生理学特論	1・2前		2			○				1					
	疾患学特論	1・2後		2			○				1					
	臨床心理学特論	1・2前		2			○									
小計(10科目)		—	4	16	0			—			10	2	0	0	0	兼5
基盤看護学領域	基礎看護学特論Ⅰ	1前		2			○				1					
	基礎看護学特論Ⅱ	1前		2			○				1					
	基礎看護学特論Ⅲ	1後		2			○					1				
	基礎看護学特論Ⅳ	1後		2			○				1		1			
	基礎看護学演習	2前		2				○			1	1				
	看護情報・管理学特論Ⅰ	1前		2			○				1					
	看護情報・管理学特論Ⅱ	1前		2			○				1					
	看護情報・管理学演習Ⅰ	1前		2				○			1					
	看護情報・管理学演習Ⅱ	1前		2				○			1					
	看護情報・管理学演習Ⅲ	2前		2				○			1					

専門科目 実践看護学領域	慢性看護学特論Ⅰ	1前	2	○		1								
	慢性看護学特論Ⅱ	1前	2	○		1								
	慢性看護学特論Ⅲ	1前	2	○		2	1							
	慢性看護学演習Ⅰ	1前	2		○	1	1	1						
	慢性看護学演習Ⅱ	1通	2		○	1	1	1						
	母子看護学特論Ⅰ	1前	2		○		1				1			
	母子看護学特論Ⅱ	1前	2		○			1			1			
	母子看護学特論Ⅲ	1前	2		○			1			1			
	母子看護学演習Ⅰ	1前	2			○		1			1			
	母子看護学演習Ⅱ	1通	2			○		1			1			
	地域看護学特論Ⅰ	1前	2		○		2							
	地域看護学特論Ⅱ	1前	2		○		1		1					
	地域看護学演習Ⅰ	1前	2			○	1							
	地域看護学演習Ⅱ	1通	4			○	1		1					
	老年看護学特論Ⅰ	1前	2		○		1							
	老年看護学特論Ⅱ	1前	2		○		1							
	老年看護学特論Ⅲ	1前	2		○		1							
	老年看護学演習Ⅰ	1前	2			○	1							
	老年看護学演習Ⅱ	1通	2			○	1							
	精神看護学特論Ⅰ	1前	2		○		1							
	精神看護学特論Ⅱ	1前	2		○		1							
	精神看護学特論Ⅲ	1前	2		○		1							
	精神看護学演習Ⅰ	1前	2			○	1							
	精神看護学演習Ⅱ	1通	2			○	1							
	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	1前	2		○			1						
	クリティカルケア看護学特論Ⅱ	1前	2		○			1						
	クリティカルケア看護学特論Ⅲ	1前	2		○			1			1			
	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	1前	2			○		1						
	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	1通	2			○		1			1			
	小計 (39科目)	—	0	80	0	—	30	15	5	7	0	兼1		
	特別研究		8			○	7	4						
	小計 (1科目)	—	8	0	0	—	7	4	0	0	0	0		
	合計 (50科目)	—	12	96	0	—	8	4	3	2	0	兼3		
	学位又は称号	修士 (看護学)	学位又は学科の分野				保健衛生学関係							
	卒業要件及び履修方法						授業期間等							
	共通科目選択12単位以上 (必修科目4単位を含む。), 専門科目10単位以上, 特別研究8単位, 合計30単位以上を修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査及び最終試験に合格すること。						1 学年の学期区分				2学期			
							1 学期の授業期間				15週			
							1 時限の授業時間				90分			